

言語学研究  
*Linguistic Research*

第13号

1994

言語学 研究  
*Linguistic Research*

第13号

1994

## 目 次

### 論 文

- 満州字による漢字音表記の規範化 —— 満州字千字文を資料として ——  
Standardization of Manchu Transcription of Chinese  
岸田 文隆 ( Fumitaka KISHIDA ) ..... 1
- ヨルバ語における母音削除とトーン変化の規則について  
On the Tonal Derivation under Vowel Deletion in Yoruba  
小森 淳子 ( Junko KOMORI ) ..... 25
- 使役および間接受動文における補文動詞の他動性と名詞句の格照合の関係について  
On the Relationships between the Transitivity of Base Verbs and Case-checking of Noun Phrases in  
Causatives and Indirect Passives  
中村 裕昭 橋本 喜代太 ( Hiroaki NAKAMURA, Kiyota HASHIMOTO )  
..... 47
- 副詞「なかなか」の意味用法の分析  
A Semantic Analysis of the Adverb 'nakanaka'  
服部 匡 ( Tadasu HATTORI ) ..... 79
- 京都大学言語学懇話会 1994年度活動報告 ..... 91

## 編集後記

ようやく、『言語学研究』13号の発行にたどり着いた。

今号から、掲載論文には英文の要旨を付けていただくことにした。今号は、初校を送っていただく段階になって初めて要旨を提出して下さるようお願いしたため、執筆者の方々にはたいへんご迷惑をおかけした。急な依頼であったが、執筆者の方々のご協力を得られたことに感謝したい。それぞれの要旨は、当方でプリントアウトし直したものであり、印刷上の間違いはすべて当方に責任がある。

『言語学研究』が有益であるためには、各地に郵送するだけでなく、つねにアクセスできる情報がこちらにある方がよい。そこで、英文要旨をデータベースとして残しておけば、『言語学研究』の掲載論文についての情報をインターネットで送ることができ、いずれは、外部から anonymous FTP を使って get できるようになると考えた。ただ、まだ、言語学研究室で FTP site が構築できる環境ではないので、当面はデータベースの蓄積を定着させたい。せつかく投稿していただく論文であるから、現在利用できる方法を使って、できる限り情報発信するような体制ができればよいと思う。『言語学研究』への投稿は、この点をご理解の上、英文の要旨を準備して下さるようお願いします。

文責：高橋 (h51137@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp)

---

1994年12月24日 発行

編集委員：岸田泰浩、今井 忍、北原真冬、高橋慶治

発行者：京都大学言語学研究会

〒606-01 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部言語学研究室内

---

Edited by Yasuhiro KISHIDA, Shinobu IMAI,  
Mafuyu KITAHARA  
and Yoshiharu TAKAHASHI

Published by Kyoto University Linguistics Circle  
% Department of Linguistics,  
Faculty of Letters, Kyoto University,  
Yoshida-Hommachi, Sakyo-ku, Kyoto,  
606-01 Japan

---

印刷所：(株)北斗プリント社

〒606 京都市左京区下鴨高木町38の2

---